

第4回 モーダルシフト促進のための貨物鉄道の輸送障害時の代替輸送に係る 諸課題に関する検討会 議事概要

1. 日時

平成27年6月25日（木）10:00～12:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階特別会議室

3. 議事概要

1. 輸送障害時の代替輸送に係る課題への対応の整理及び報告書（案）について、事務局から発表を行った。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○JR貨物のシミュレーションにより、JR貨物による代替輸送手配以外は、荷主が手配するということが明確になった。報告書に記載があるように、「関係者と連携する」とか、「シミュレーション結果や体制の構築状況を予め荷主と共有する」といったことを実行することで、荷主側の対応にも役立つと思う。

○ハザードマップのようなものを、自治体とJR貨物旅客会社の間で共有し計画的な整理計画を作っているのか。災害が起きてからのアクションでは、荷主は慌てなければいけない。いかに災害が起こることを防ぐか。由比―興津間もずいぶん前から危険性を指摘されていたという認識がある。

○本検討会は、比較的大きな災害を想定したものであるが、日々小さなトラブルによって数時間単位で遅れが生じている。それが原因で積極的にモーダルシフトに踏み込めないということが、実はある。

○今回のシミュレーションは長期の輸送障害を想定して作成した。日頃の鹿や人身事故による輸送障害については、JR貨物としては安定輸送を重要なテーマとして遂行しており、鹿については毎年各県に駆除の要請を絶え間なく行っている。旅客会社とも勉強会等を行っている。個別の案件については、日々しっかり対応していきたい。（JR貨物）

以上（文責 事務局）